令和６年度第２回佐賀市環境審議会　議事録

◆　開催日時

令和６年１１月１９日（火）　１０時００分～１２時００分

◆　開催場所

佐賀市清掃工場２階　大会議室

◆　出席委員（敬称略）

岡島俊哉（会長）、大渡啓介（副会長）、田中宗浩、関清彦、小城原直、草場真智子、
松尾真理子、藤井律子、有森　明子、髙橋朋子、中村佳代、大石寛貴、中原正登、
中野千歳、多々良たまえ

◆　欠席委員（敬称略）

松本考司、島﨑健

◆　事務局

宮﨑環境部長
環境政策課（梶山副部長、福本副課長、香田係長、石川室長、西岡主査、小柳主任、前田）
循環型社会推進課（馬場副部長、羽立参事、王丸副課長、三好係長、副島主査）
環境保全課（大家課長、石井参事）
衛生センター（熊添所長、吉原副所長、塚﨑係長）、施設機能向上推進室（田中室長）

◆　傍聴者

なし

◆　議事要旨

１　開会・挨拶

２　議事

（1）第３次佐賀市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）（案）について

≪事務局説明≫

資料１－１、１－２

≪意見交換等≫

〇会長

ただいま事務局から説明を受けた。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

〇委員

概要版の裏表紙に、家庭からの排出量の削減（「暮らしの CO2 ダイエット」）についてまとめられているが、家庭からの削減量は 2034 年度の全体目標である 60%削減（2013 年度比）の何パーセントに該当するのか。

〇事務局

概要版の裏表紙の内容は、家庭部門のみであり全体の何パーセントにあたるか算出することは難しい。資料１－１（本編）の p.5 の下部の表１にある、家庭部門の 2034 年度（計画）の数値とリンクしている。

〇委員

本編 p.5 下部の表１によると、2034 年度には家庭部門で 71%削減（2013 年度比）しておきましょうということで理解した。

〇委員

家庭の屋根に設置する太陽光発電はどの部門に含まれるのか。家庭部門になるか。

〇事務局

家庭の屋根に太陽光を設置し自家消費されることでエネルギー消費が減るため、家庭部門に含まれている。

〇委員

概要版の裏表紙の図は、とてもいい図だと思う。市民としても、エネルギー削減に貢献できることを実感でき、自分にとっても周囲の環境にとっても得になるというメリット部分が記載されており、市民の意識改革としていいと思う。

〇副会長

概要版 p.2 の削減目標のグラフについて、実質の削減の値と、ニュートラルの削減の値とがあると思うが、それらは合算されることになるのか。

〇事務局

概要版 p.2 のグラフの 2021 年度から 2050 年度にかけて破線のグラフがある。青色の破線は現状推移した場合の排出量の自然減少の推計を示しており、赤色の破線は国と連携した施策や電気の排出係数による排出量削減の推計を示している。数値としては合算になる。

○副会長

施策の中に、実質の削減と排出量をニュートラルにするような施策が分けてあるのかと思った。排出量実質ゼロをめざすときに、手当たり次第に削減してしまうと CO2 が減りすぎるという問題も出てくるのではないか。排出量をコントロールすることが必要であれば、ニュートラル分を確保し、CO2 をある一定量保つ必要があるのではないか。

○事務局

CO2 を削減する際、一定の CO2 が必要ではないかという意見と理解してよいか。CO2 に関しては、削減してもまだまだ危険な状態である。計画すべてを達成しても、2050 年カーボンニュートラルは辛うじて達成できるような状態である。これだけ削減しても全体の温室効果ガスが減りすぎるということはない。

○委員

概要版の裏表紙について、自家用車からの排出量は家庭部門に含まれていないのか。航空機が CO2 を大量に出すと言われているが、一人当たりでみると自家用車からの CO2 排出量の方が航空機と比較して多いと言われている。

○事務局

自家用車は、運輸部門に含まれる。本編 p.5 の下部の表内の運輸部門に当たる。

○委員

自家用車の使用は、最も CO2 を出す原因なので、概要版の裏表紙に自家用車の取組も記載してはどうか。ガソリン 1 リットル使用した場合、どの程度の CO2 が排出される等。

○事務局

市民向けとなると、自家用車の取組も重要なポイントである。市民に発信する際、この図に工夫ができれば検討させていただく。

○会長

概要版の裏表紙を見たときに、二通りの見方がある。一つは「頑張ってもこれだけ」、もう一つは「頑張ったらこれだけ」である。この図を市民がどう活用していけるか、委員の意見をいただきたい。

○委員

「暮らしの CO2 ダイエット」を一般家庭に啓発するときは、家計のお得（エネルギーを削

減すると何円お得等）を目立つように書くと、市民の目につくと思う。

○事務局
本計画は、CO2 を減らすための計画である。検討させていただく。

○委員
先日環境問題の講演を聞きに行った。多摩市では「片手で絞ると１億円、両手で絞ると３億円」をキャッチフレーズとした水切りネットを市民に配布し、CO2 の削減につなげている。ごみ収集車はごみの重さによって往復する回数が変わるため、水切りを行うとごみの重量が減り、収集車の往復回数が減らすことができる。また、ごみに水分が入っていると焼却炉が冷え、焼却炉内の温度を上げるためにさらに CO2 排出量が増える。こういった取組は CO2 削減及び税金の削減にもなるため、本市の計画にもこのような身近にできることを記載していただきたい。

○委員
概要版 p.4 に森林整備面積とあるが、樹種は何を植えるのか。

○事務局
森林整備面積は市有林を指している。植える樹種まではわからない。基本的にスギなどは CO2 吸収量が高いと言われている。いま注目されているのは成長が早く CO2 吸収量も高いエリートツリーのサガンスギである。一般的に広葉樹に比べ、針葉樹の方が効果は高いと言われている。

○委員
針葉樹の方は吸収率が高いと認識した。成長が早い樹木の方が吸収率は高いと思うが。

○事務局
基本的には 40 年くらいまでは CO2 吸収率が高く、そこから徐々に下がっていく。

○委員
森林づくりについては、CO2 排出量の削減だけでなく、生物多様性の視点からも考えていただきたい。スギばかり植えて生物多様性が向上するのか疑問である。数年前の北部九州の大雨でスギ林が崩れ、これを反省に広葉樹を交えた森林づくりをするという話も出てきている。スギだけに限らず選択肢を考えていただきたい。

○事務局

市の森林整備計画で、針葉樹を植えていくとなっている。

○会長
生物多様性や林業の問題等、色々あるかと思う。どうバランスをとっていくかが課題である。

○委員
森林整備面積 2034 年度目標 170ha とあるが、ここでいう整備とは、面積の拡大や、放棄地の整備等ではなく、樹木を成長させ、適切な時期に伐採して利用し、また植林するサイクルを回していくことだと理解している。まず林業として成立させることが大前提かと思うので、「国産材の使用の推進」等の取組を計画内で示していただくとよい。

○事務局
ここでの整備は、面積を広げるというよりも、伐採、利用、植林するという考え方である。木材の利活用については色々な用途があるが、現在、林業において後継者の問題がある。やみくもに整備面積を広げていくということではないため、その点計画の中で表現ができればと思う。

（2）佐賀市一般廃棄物処理基本計画（案）について
≪事務局説明≫
資料２

≪意見交換等≫
○会長
ただいま事務局から説明を受けた。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員
p. 3-29「手付かず食品」について、市民の取組をもっとアピールするといいと思う。実行計画は西暦で表記されているが、一般廃棄物処理計画は、和暦表記である。他の資料（計画）と統一した方がいいのではないか。

○会長
p. 3-29 に、「水切り」の取組を追加してもいいのではないか。
リサイクル製品の廃棄率は把握しているのか。ちゃんと循環経済になっているか。

○事務局

再生品の廃棄については数字で追えないため、把握できない。再生品を作り、消費・使用されるという循環の輪をつくることが大切である。入口と出口の部分のバランスを取りながら施策を考えていかなければならない。

〇委員

p. 3-28 に「１人１日当たりごみ排出量 416g」とあり 40ｇの削減をめざすとしているが、40g と言われてもイメージがつかない。先日、北九州市に視察に行った際、北九州市ではごみ 32g 削減をめざし、その目標を「いちご１個分減らそう」と記載していた。市民がイメージしやすい見せ方が必要ではないか。

また、北九州市では再生紙は全てトイレットペーパーとしてリサイクルされている。再生紙を使用したトイレットペーパーは高価で売れにくいことを見越して、市が小学校や市の施設で使用している。リサイクルのその後まで考えることが必要である。

〇事務局

１人１日あたりの削減量（40ｇ）については、検討部会でもイメージしにくいとの意見があり、p. 3-31 に追加でイラストなどを記載している。

本市では、ボトル to ボトル（ペットボトルの水平リサイクル）などにも民間事業者と提携して取り組んでいる。出口を意識し、リサイクルが回るような取組を進めていきたい。

〇会長

高齢者のごみ出しについて、見守り運動と連動できればよい。

〇委員

ごみの排出量についてグラムで記載されているが、市民が何グラムでどれくらいの量かわかるのか。削減量についてグラムだけでなく、「ごみ袋の小サイズと同等の量になる」等、市民がわかるような見せ方にしていただきたい。

資料２の p. 3-46 高齢者へのごみ排出支援とあるがは、本当に可能なのか。

〇事務局

高齢者へのごみ排出支援について、ごみ出しの支援が行政サービスであると大変助かるとの意見を検討部会でもいただいた。全国の取組状況を国が調査しており、令和 2 年度の調査では、約３割の自治体が高齢者のごみ出し支援を行っていた。今回の計画期間は 10 年間であり、高齢者が今後も増加するようであれば本市でも必要性が高まっていくという認識で記載している。福祉部門と連携し、まずは現状を調査し、収集方法などについて検討していきたい。

○委員
空き家問題と同様、高齢者住宅もまばらにあり、路地の奥の狭い場所など、実施が難しい部分もあるかと思うが、ぜひこの取組を実現していただきたい。

（3）第３次環境基本計画（案）について
≪事務局説明≫
資料２

≪意見交換等≫
○会長
ただいま事務局から説明を受けた。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員
資料 3-2 の p.30 に、2034 年の佐賀市のイメージのイラストの後ろに生物の説明が追加されてわかりやすくなった。資料 3-1 の概要 p.4 の下部に「3010 運動」とあり、どこかで聞いたことのある言葉だが、内容がわからない。概要の中に説明書きがないので、市民にわかるように記載してほしい。

○委員
資料 3-2 概要 p.5 ページの指標に「市街地のみどりが増えて景観が良くなった」とあるが、「みどり」という言葉について、環境項目 3-3 に記載しているネイチャーポジティブや生物多様性とリンクしているのか。どんな植物を植えてもネイチャーポジティブにつながるわけではない。

○事務局
指標は市民を対象とした無作為抽出のアンケートによるものであり、ここでの「みどり」はそれぞれの考える主観的なものである。したがって、ネイチャーポジティブを意識して景観が良くなったと感じることと、リンクはできていない。

○委員
生物多様性にも貢献できる植物を植えていただきたい。虫が食べない植物は食物連鎖が始まらない。例えば、モンシロチョウの幼虫はキャベツを食べ、アゲハ蝶の幼虫はみかんを食べる。そういった昆虫をツバメが食べ、食物連鎖していく。このような視点を持って、植栽を行っていただきたい。

○会長

市役所の方だけに任せることはできない。ネイチャーポジティブを日本語では、自然復興や自然回復と言う。一度、このようなことについて勉強会を行えるとよい。

〇委員

資料 3-2 の p. 54「自然観光資源の保全と活用」とあり、自然環境や野生生物をうまく利用（ワイズユース）しながら豊かな環境を目指すいいアイデアであると思う。計画には、具体的な生物例として「シチメンソウ」と「エヒメアヤメ」が挙げられているが、シチメンソウは 11 月、エヒメアヤメは 4～5 月がシーズンである。他のシーズンはどうなのか。先日、新聞に佐賀平野の淡水魚のことが掲載されていた。佐賀には世界的にみても希少な魚がいるのに計画に出てこない。魚は１年中いるのになぜ観光資源にしないのか。トンボも観光資源として計画に出てこない。そのようなことも取り上げていただきたい。

〇副会長

植える樹種について、効率の話ばかり先行しているが、気候に適したものを植えなければならない。さらに気温が上がる可能性もあるため、何を植えるかは重要になると思う。

〇委員

今回の三つの計画をみたときに、環境基本計画と温暖化対策実行計画は、めざす姿、市の施策、市民や事業者の取組が記載されている。実行計画では、家庭での取組を取り上げられておりわかりやすかった。一方で、一般廃棄物処理計画 p. 3-29 で、市の施策等が記載されてあるが、市民が取り組めることを別枠で表現していただけるとよい。

〇委員

資料 1-2「暮らしの C02 ダイエット」では、どのような家庭をモデルにしているのか気になった。また、アップサイクルという考え方があり、商品としての価値を高いものを作っていくことのようである。ペットボトルのキャップがアクセサリーとして生まれ変わった商品などがある。プラスチックごみを資源化し、リサイクルすることも必要だが、そもそも商品価値の高いもの、人目を引くようなものを作ることも大切だと考える。

〇会長

それでは、ほかに意見がないようであれば、本日の議事は終了としたい。

３　その他

なし